



“シェア” から “ウイズタイム” へ

このところ二人の友人がシェアハウスをスタートさせた。シェアハウスは「1軒の家を複数人で共有」するので、住人はそれぞれ個室をもちながらも、食堂等を共有スペースにし、住人同士のコミュニケーション醸成と同時に、家賃負担軽減を可能にする▼同じ西東京市に住む友人のAさんは2016年にシェアハウスを立ち上げた。そもそもは11年から都立高校受験を目指す塾に通っていない中学3年生を対象とした無料塾を開き、「貧困と格差から子どもを守る」活動を開始。これら活動をベースに、シェアハウスの1階は塾の教室や、教育カフェ、学習会、懇談会等に利用し、2階をシェアハウスにして「家族の支援が受けられない経済的に厳しい若者等の住居支援」を行ってきた▼こうした実績を踏まえて、このほど先のシェアハウスを女子限定とし、あらためて男子のための第2ハウスを筆者の自宅近くにオープンした。地域住民との支援・交流も必要だということで、自治会による見学・説明会を催したところでもある▼練馬区に住むもう一人の友人Bさんも、昨年5月にシェアハウスをスタートさせた。1階を就労継続支援B型事業所とし、地域の障害のある人たちがチョコレートづくりやカフェ営業を行うとともに、子ども食堂をはじめとして地域住民が集う場とし、2階をシェアハウスとしている。これに「ウイズタイムハウス」と命名した▼両者とも個室の生活を前提にしながらも、時間と場を共有していく新しい形の共同住宅を目指している。貧困と格差の是正＋コミュニケーション醸成という大課題を突き付けている。

(土着菌)